

成人・老年看護学実習 I (急性期・回復期) (2単位)

1. 実習目標

1) 実習目標

成人期・老年期の患者・家族を総合的に理解し、急性期・回復期にある患者の看護を実践できる基礎的能力を養う。

2) 行動目標

【手術室】

- (1) 患者が手術を受ける環境と看護の特徴について述べる。
- (2) 手術を受ける患者の心理状態と看護師の関わりについて述べる。

【病棟】

- (1) 患者・家族の手術に伴う不安の原因と影響をアセスメントし、不安軽減のための援助を実施する。
- (2) 手術を受ける患者の身体状況を把握し、手術に向けた準備を実施する。
- (3) 手術・麻酔による生体侵襲についてアセスメントし、異常の早期発見、合併症の予防に向けた援助を実施する。
- (4) 手術・処置による身体的苦痛・心理的苦痛の緩和に対する援助を実施する。
- (5) 手術後の機能・形態的变化が日常生活に及ぼす影響を理解し、回復に向けての援助、退院後の生活で生じる問題の予防・解決のための援助を実施する。

【救命救急センター病棟 (ICU)】

- (1) 集中治療を受けている患者に行われる治療・看護の特徴について述べる。
- (2) 急性期の患者の生体反応を捉え、系統的な観察を指導に基づいて実施する。
- (3) 集中治療を受けている患者・家族の心理状態と精神的援助の必要性を述べる。

2. 実習方法

- 1) 手術室・病棟・救命救急センター病棟 (ICU) で実習を行う。
- 2) 急性期・回復期にある患者を受持ち、個別性を考慮した看護を行う。

3. 留意点

- 1) 事前に担当教員よりオリエンテーションを受ける。
- 2) 各実習初日に病棟オリエンテーションを受ける。
- 3) 学生主体で毎日カンファレンスを行い、学習体験の共有と疑問の解決を図り、学びを深め、広げる。実習5日目までに中間カンファレンスを実施する。実習終了日は、実習での体験とカンファレンステーマを関連づけて終了カンファレンスを行う。
- 4) 実習終了後、実習での学びをレポートにまとめる。